

議事(3)情報保障の推進について (本日の検討事項)

【論点①】 情報保障の推進について

障害及び障害者への理解を深め、差別の解消を進める上で、障害者が必要な情報を取得することは不可欠である中、本条例において情報保障の推進に関する規定を設けることの要否及び規定すべき内容について御意見を頂きたい。

※個別具体的な情報取得手法や施策の是非や要望等ではなく、都や事業者、都民の基本的な取組方針等についてご意見をいただきたい。

※都と区市町村は対等・協力の関係にあり、それぞれ完全に独立した地方公共団体となるため、本条例では、区市町村が判断すべき区市町村の取組方針についてではなく、あくまで都を主体としてご意見をいただきたい。

論点

- 障害及び障害者への理解を深め、差別の解消を進める上で、障害者が必要な情報を取得することは不可欠であるとの観点から、情報保障の推進に関する規定を設けることが必要ではないか。
- 都は、障害のある人が円滑に情報を取得・利用し、意思疎通を図ることができるよう、可能な限り障害のある人に配慮した多様な手段によって情報提供を行うとともに、関係機関と連携し、意思疎通を仲介する者の養成等必要な施策を講ずるよう努めることが必要ではないか。
- 同様に、事業者は、手話、筆談、点字、触覚を使った意思疎通、拡大文字、読み上げ、平易な表現、情報通信機器の利用など、障害の特性に応じた多様な方法により、情報提供に努めるべきではないか。

【論点②】 言語としての手話の位置づけ

手話は、情報保障として重要であるだけでなく、聴覚障害者が自ら生活を営むために使用している独自の体系を持つ言語であって、障害者基本法第3条第3号は、「全て障害者は、可能な限り言語（手話を含む。）その他の意思疎通のための手段についての選択の機会が確保されるとともに、情報の取得又は利用のための手段についての選択の機会の拡大が図られること。」と規定し、手話が言語に含まれることを明記している。

このことを踏まえ、手話が言語であることを改めて本条例も定めるとともに、「言語である手話」の認知を広めるために都が果たすべき役割を規定することについて、御意見をいただきたい。

論点

- 都は、言語である手話の認知を広めるための啓発に努めるとともに、都民及び事業者において手話の利用が進むよう、必要な施策を講ずるよう努めることが必要ではないか。

本日の検討範囲の確認

検討事項	第1回部会を踏まえた主な論点
①基本理念等 (総則)	・ 本条例の基本理念 ・ 本条例の目的 ・ 差別等の定義
②都民及び 事業者の理解促進	・ 都民及び事業者の責務 ・ 理解促進に向けた都の基本的役割
③事業者による 取組の推進	・ 多様な企業が集積する都における支援のあり方
④情報保障 の推進	・ 多様な手段による情報の取得や意思疎通支援の推進の位置づけ 等
⑤相談・紛争 解決の仕組みの明確	・ 既存窓口を踏まえた相談体制 ・ 実効性確保（権限行使）のあり方

本日
検討